

R6.とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ー 0歳児ー

施設番号	66-1423
施設名	品川大和保育園
施設所在地	品川区小山 4 - 3 - 9
法人名	社会福祉法人 大和社会福祉事業センター

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然、

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園の周辺に自然物に触れることができる公園がいくつかあり、子どもたちも積極的に自然と触れあっている姿が見られる。

2. 活動スケジュール/内容

夏.. 近くの公園に行き、青葉に触れる。

秋.. 落ち葉や木の実探りを楽しみながら、見立てあそびをする。

冬.. 芝生や霜柱など葉っぱ以外の感触を楽しむ。

アドバイザーによるアドバイス(年間を通して)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

①用意したもの

・大判マット・ビニール袋・R-1容器・ドライフラワー・ユーカリの葉っぱ・小石・山ぶどう

②環境設定

・季節によって行く場所を変更したり、同じ場所でも気温や天気、地面の乾き具合を見て自然に触れあうようにする。

LT=0

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・夏… 室内でドライフラワーやユーカリの葉、はちまきからゆずのように準備をする。最初のうちはあまり興味を示していない様子が現れたため言葉掛けをする。室内での移動を通して戸外でも自然に触れられるようにした。
- ・秋… 同じ公園の同じ場所へ行き、地面の乾き具合で葉、はちまきや感触の違いに気付けるようにした。
- ・冬… 霜柱が降りている日や寒い日に戸外へ出て季節の移り変わりを感じられるようにした。葉、はちまきが少ないこともあり、自然物以外(芝生)にも触れていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・夏… 最初は自然物にあまり興味がなく、触れようとしてくれた。公園で保育者が「葉、はちまき」に触れながら伝えていると徐々に触れようとした。その後は葉、はちまきの種類によらず好き嫌いが見えなくなった。
- ・秋… 見立てあそびが楽しい時期で、葉、はちまきをお母さんや先生で前髪をとめているのを見て、一瞬お母さんや先生に近づき、同じように髪に乗せている姿が見られた。
- ・冬… 霜柱が日差しに当たってキラキラしているのを見て「キラキラあ、ア」と木の幹で触れてみた。初めて触れようとする不思議そうな表情をしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・はじめは全く興味を示さなかった自然との関わりであったが、回数を重ねていく事に興味をもっている姿や触れようとするものがだんだん変化していく過程に面白さを感じた。
- ・また、自然を通して友達との関わりが深くなっていき、同じことをしてみたい志欲を引き出しているように思えた。

R6.とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ー 1歳児 ー

施設番号	66-1423
施設名	品川大和保育園
施設所在地	品川区小山4-3-9
法人名	社会福祉法人 大和社会福祉事業センター

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 子どもたちの遊びにおいて一番身近なものであると考えたため
- ・ 近隣に 林試の森 という 大きな公園 をはじめとした数多くの公園があり、自然というテーマに沿って活動するにふさわしい環境であると考えたため
- ・ 園に園庭がないこともあり、子どもたちの戸外活動への期待感が高かったため

2. 活動スケジュール/内容

身近な自然に触れた時の子どもたちの反応に着目し、次の活動の核となるようにしていった。
夏季は戸外活動に制限がかかっていたため、室内で水を用いた活動を重点的に行った。
水→水の温度(お湯、水)→水の感触→水の重さ→水の色による興味の違い
→葉の色への興味→自然物の色、形→自然物を使ったアートや製作
→自然物を使った見立てあそび→影の存在の発見→自然物の中から遊びを作り出す

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

夏季は戸外に出れなかったため、室内で水を用いた五感を刺激する活動を計画していった。
35℃の湯や氷などを用意して温度の違いを感じられるようにしたり、水の動きに着目していた時にはスポンジを用意して吸水する様子やスポンジを持ち上げた時に水が滴る様子などを観察できるように工夫した。道具を過剰に用意することによって子どもたちの興味が自然に道具に注ぎ込まないように、自然物以外の道具の使用は最低限となるようにしていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

以下の点に着目しながら活動を行っていた。

水に溶ける → 水の温度（お湯、水） → 水の感触（大小の袋に入れる） → 水の動き（スポンジを用いる） → 水の色による興味の違い（食紅で色をつけた水、糸の具で色づけていた水で糸を描く、ボンドペイント） → 葉の色への興味 → 自然物の色・形 → 自然物を使ったアートや製作（万草鏡など） → 自然物を使った見立て遊び（料理、お宿屋さん） → 景の存在の発見（影のふみ、景はどにまで伸びているか） → 自然物の中で遊びを産み出す

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

温度の違いによる驚きを感じた時、角めた手のひらをまじまじと見つめたり、顔（頬）に手をあてたり、足で踏んでみようとしたりするなどの動きを見せていた。また、お友だちにその驚きを共有しようとして、お友だちの頬に手をあてるといった姿も見られた。

葉の色あつめでは、最初は手にとった葉、はを片っぱしから持ちまわっていたが、自発的にまだ見つからない色を探したり、すでに色わけされている葉、はを見て「これで合っているのだから」と疑問を持ち子どもたち同士で葉、はの並べかえ（入れかえ）をしたりしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

大人はすぐに子どもたちに「何か」を与えてしまおう。それは「便利」な楽しい道具、であったり自分の経験から得た「大人の答えのうちの1つ」であったりする。しかしそれは時として、子どもたちが自分で考えることをやめてしまったり、自分の考えを表出する機会を失わせてしまったりすることになる。私たちが想像しているよりもずっと、子どもたちは「遊び」を見つけるプロであり、その能力は無限大であると感じた。その無限大の能力を有限にしてしまわないよう、私たちは手を貸しすぎないように見守り、自ら遊びを変化・進化させていく子どもたちの力を信じていかなければならないと思った。

R6.とうきょう すくわくプログラム活動報告書

— 2歳児 —

施設番号	66-1423
施設名	品川大和保育園
施設所在地	品川区小山 4 - 3 - 9
法人名	社会福祉法人 大和社会福祉事業センター

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 色のちがいを認識できるようになり、色の好みも出てきた2才児。
ス・色の名前にも興味が出てきているので テーマを色に設定した。
- ・ 当園では夏の水あそびに タライを使っているので 時期的にもちょうどよく、
色を使った水あそびを楽しめると思ったため。

2. 活動スケジュール/内容

- ・ 様々な色(水)あそび
ジュース作り・寒天・片くり粉・氷・スライム・自然(実・花など)
- ・ 色を使った造形や製作
にじみ絵・フィンガーペインティング など

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ 絵の具・たらい・ペットボトル・ティンダーボックス・スポンジ
- ・ セラケン・洗たくのり・ホウ砂・ブルーシート・布 など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・色水の作り方 → たいらい・絵の具・水・容器を使い混ぜ方を工夫。
- ・色の変化 → 何色が準備し変化を知る。カップやペットボトルで個別に混ぜる。個別の気づき。
- ・色あそび → 五感を使い 寒天・氷・スライムなどで感触。冷たさ・見た目のちがいを。
- ・色を使って製作 → 友だちとのめかれりながら楽しむ。あそびを深める。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・たいらいで色水あそびをしていると、カップに入れ、色を見ながらジュースに名前をつけ「パーティー盛り上がった。そこでペットボトルに入れジュースを作ると、室内でもままじと遊びへとながっていた。
- ・「オレンジ汁は黄色」と知っている言葉を並べたり、「赤と青から紫が産まれた!」と発想が豊かであった。1年を通し、2月には「せんがまぜたら黒いになるかな?」とイメージをもちます。発言もあり、保育者が「次やってみようか」とつづけていく事を楽しんでいく事ができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・色の変化の気づきを喜ぶ子もいたが、主に混ぜる過程が楽しい様子であった。
- ・真実的な表情で取り組んでいた。(写真・動画を撮る事で実感できた)
- ・保育者が普段以上に子どもの声に耳を傾ける事ができ、言葉の成長も感じる事ができた。
- ・発見や気づきを友だちや保育者に共有する事を喜ぶ姿が多く見られた。
- ・1年を通し、1人あそび → 真似(模倣) → 一緒にあそび → 友だちの存在というようにあそびの成長に気づき、つづけていく事が実感できる事ができた。



R6.とうきょう すくわくプログラム活動報告書

— 絵 —

施設番号	66-1423
施設名	品川大和保育園
施設所在地	品川区小山4-3-9
法人名	社会福祉法人 大和社会福祉事業センター

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生きもの

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

遊園地の公園で遊んでいるカキを見て、「食餌が面白い」と発言したことから、食餌に関すること。その中でも、公園で見つけたカタツムリを食餌にしたり、メダカの餌を飼育したりと生きものにまつての食餌に興味がある子どもたちの様子から生きものとうきょうをテーマに設定した。

2. 活動スケジュール/内容

★ カキ 食餌 (カキを育てるために…何を食べるか、どうやって育てているか?)
(運動会につれていく? どうやって持ち運ぶか?)
(年々お世話になる長期飼育の世話はどうする? など)

★ おめひの虫はあるの?

★ カタツムリは音で話せるの? 7D

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ★ 金魚 カキの食餌方法の本を用意する
- ★ 子どもたちの見える場所に生きものを置く
- ★ 子どもたちがお世話ができるような用具をそろえる

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

★ カ×会言義

★ おめひ⁰に歯はあるの?

★ カタツムリは音がするの?) 自分で言明べ、こたえを見つける

★ 生き物の世話 → 観察のやり方・おうちから持ってくるなど家庭との連携

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

★ 子どもたちが見つけた疑問点自ら考えたり言明べたりして解決しようとする姿が見られた。子ども同士でしめかて言明べる姿も見られた。

★ 保育者は…

子どもたちが自分で言明べられる環境と作りこむ



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

★ 子どもの疑問点に耳を傾け、言明べる方法や材料を用意することで、子どもたちが自身で言明べ、こたえを見つけることができることがわかった。

些細な発言も保育者が気付け、広げることによって子どもたちにとって学習が深まることがわかった。